



特定非営利活動法人

神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr. 346

Januar 2020

NPO法人 神戸日独協会

〒651-0087

神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館19F

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE
GESELLSCHAFT KOBE

International House Kobe 19F

Goko-Dori 8-1-6 Chuo-Ku

651-0087 KOBE/JAPAN

新年ご挨拶

NPO法人神戸日独協会会長 柘田 義一

2020年の年頭にあたり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。平素は神戸日独協会の活動に対しまして、格段のご協力、ご指導を賜り、厚く御礼申し上げます。新しい年が協会や会員の皆様にとって素晴らしい年になりますように心より祈念しております。

昨年も、夏の記録的な猛暑、干ばつ、森林火災、豪雨による冠水、火山の噴火、地震など日本を初め世界各地にて自然災害の多い一年でした。これらすべてが温暖化による気候変動に起因するとは言えませんが、異常気象にあたり温暖化を防止して環境を保護する動きが強まった一年でした。温暖化防止のためのエネルギー転換もドイツでは風力発電などによる余剰電力を用いた水素産業や新しいエネルギーの開発など再生可能なエネルギーによる新しい産業が展開されています。市民レベルにおいても、食料品生産、特に食肉生産によるCO2発生を自覚した食生活の見直し、余剰食料品の削減、交通機関利用の見直し等々日常生活からの環境保護の自覚と実践が強まっています。環境先進国であるドイツを参考に、今年はさらに環境保護への自覚を一層高めねばならないでしょう。ヨーロッパではイギリスのEU離脱によるEU圏の混乱、自国の利益が第一というナショナリズム台頭、経済格差によるポピュリズムの拡大、人口頭脳による産業の変革等々、先行き不透明で混迷が予想される目の離せない国際情勢が続くでしょう。

今年は「神戸日独協会設立80周年」を迎えます。しかし会員のボランティアによる民間の国際交流団体としての協会は、かつてない大きな曲がり角に立っています。発展した情報化時代、進む高齢化時代、生活の価値観変化の時代、働き方変革の時代、このような時代に適応すべく協会の活動を見直すとともに、新しいことにもチャレンジすることで新たな日独協会のあり方を模索し、草の根的な活動を地道に積み重ねていくことの意義を今年も再確認したいと思います。

協会の運営については原点を大切に、将来を見据えて一步一步積み重ねて努力をしていきます。会員皆様のより一層のご支援とご協力を宜しくお願い申し上げます。

「ドイツの日 German Day」の開催

神戸日独協会は、芦屋市立潮芦屋交流センター（指定管理者：認定NPO法人芦屋国際交流協会）との共催で、大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館の協賛を得て、「ドイツの日 German Day」を開催します。

この数年ドイツでも夏の猛暑や干ばつなど異常気象が頻繁に発生し、温暖化防止への関心が高まり産業におけるエネルギーの転換のみならず市民の間でも食の見直しなど環境保護へのいろいろな動きが見られます。環境先進国であるドイツの現在の様々な環境対策について、ヴェルナー・ケーラードイツ総領事に「ドイツの環境問題について」（日本語通訳付き）という題目でご講演をさせていただきます。ご講演の後ドイツの歌のミニコンサート（予定）、お茶とお菓子を取りながらの交流会を行います。会員の皆様のご参加をお待ちしています。

日 時： 2020年2月15日（土）14:00～16:00

会 場： 芦屋市立潮芦屋交流センター 2階多目的室
芦屋市海洋町7-1

対 象： 中学生以上

定 員： 100名

参加費： 700円

申 込： 2月10日（月）まで芦屋市立潮芦屋交流センターへ電話（0797-25-0511）で
9:00～17:30、水曜日休み

☆ 会場へのバスのご案内

阪急バス71番「浜風大橋南」行にて「潮芦屋中央」下車5分

停留所	阪急芦屋川	JR芦屋	阪神芦屋	潮芦屋中央
	13:16	13:20	13:27	13:33
	13:36	13:40	13:47	13:53

2019年度第Ⅳ期開講

1月14日（火）からドイツ語講座・ドイツ文化教室の2019年度第Ⅳ期が開講します。

近年会員の方の講座・教室への参加が少なく憂慮されています。協会ではこのグローバル時代に対応できるように、ドイツ語での各種情報の理解、情報の発信ができるような授業内容を提供するように努めています。協会のドイツ語講座では授業経験の豊富な講師が、文法の授業であれ、講読の授業であれ、まして会話中心の授業では「今のドイツ語」を念頭に授業を行っています。講座内容については、事務局へお問い合わせください。新年からドイツ語講座・ドイツ文化教室に参加しませんか。奮ってご参加ください。

2019年度ドイツ菓子講習会

2019年度第2回ドイツ菓子講習会のご案内

本シリーズ第2回目のドイツ菓子講習会を、以前にもご指導いただきました、お料理研究家の日下部管子さんにご指導して頂きます。日下部さんがドイツ留学時代にホームステイされた、ヘルマン家定番のお菓子も教えて頂きます。多くの皆様ご参加いただきますようご案内いたします。

◇日時：2020年1月26日(日) 10時00分—14時 (10時までに集合してください)

◇場所：芦屋市立潮芦屋交流センターの料理教室

芦屋市海洋町7-1 (0797-25-0511)

阪急・JR・阪神の芦屋駅より阪急バスで「潮芦屋中央」バス停下車すぐ。

◇後援：芦屋市立潮芦屋交流センター

◇メニュー：1 リンゴのケーキ (Apfel-Kuchen)

2 玉ねぎのケーキ (Zwiebel-Kuchen)

◇参加費：1000円と材料費

材料費の概算は、追って参加者にお知らせします

◇募集人数：30名

◇申し込み：参加ご希望の方は、2020年1月17日まで、神戸日独協会事務室まで、電話・FAX・メールにてお申し込みください。定員になり次第締め切らせていただきます。(Tel/Fax 078-230-8150 メール: info@jdg-kobe.org)

☆ 参加費・材料費は、当日現地でお支払いください。

☆ 当日、エプロン、タオル、レシピ(後日参加者に送付)と筆記用具をご持参ください。

2019年度第3回ドイツ菓子講習会開催のお知らせ

今年度のドイツ菓子講習会シリーズ最終の第3回目は、以前にもドイツ家庭料理講習会でたびたびご指導をいただいた、ドロテア合田さんに下記要領で教えて頂きます。

多くの皆様にご参加いただきますようご案内いたします。

◇日時：2020年2月23日(日) 13時15分—17時 (13時までに集合してください)

◇場所：うはらホールの料理教室

(JR住吉駅すぐ南の東灘区民センター8階の料理教室 078-822-8333)

◇参加費：1000円と材料費

材料費の概算は、追って参加者にお知らせします。

◇メニュー：1 マーブルケーキ (Marmor-Kuchen)

2 チョコレートムース (Mousse au chocolat)

◇募集人員：24名

◇申し込み：参加ご希望の方は、2020年2月14日(金)までに、神戸日独協会事務室まで電話・FAX・メールにてお申し込みください。

定員になり次締め切らせていただきます。

(Tel/Fax 078-230-8150 メール:info@jdg-kobe.org)

☆ 参加費・材料費は、当日現地でお支払いください。

☆ 当日、エプロン、タオル、レシピ(後日参加者に送付)と筆記用具をご持参ください。

神戸日独協会会員によるコンサート

前号会報にてご案内しましたように、神戸日独協会会員による早春コンサートを開催いたします。2020年は、ベートーヴェンが1770年に生まれてから250年になります。今回のコンサートはベートーヴェン生誕250周年をテーマに開催いたします。多くの会員及びご家族、ご友人の皆様の参加をお待ちしております。

日 時 : 2020年3月14日(土) 15:30開演 (15:15開場)

会 場 : 音楽ホール&ギャラリー里夢 SATOM (Tel 078-821-2140)

(神戸市灘区曾和町1-4-2-B1、阪急六甲下車2番出口 山側へ徒歩約6分)

会 費 : 会員及び会員のご家族・ご友人 1000円 一般 1500円

プログラム(予定) :

ベートーヴェン ピアノソナタ 第8番「悲愴」Op.13 より 第2楽章

ロマンス 第1番 Op.40

ピアノソナタ 第30番 Op.109

ピアノソナタ 第14番「月光」Op.27-2

ピアノソナタ 第29番 Op.106 より 第1楽章

出演者 : バイオリン 高橋愛

ピアノ 福田可織 平山梨絵 上杉恵一

チケット予約 : 2020年3月6日(金)午後5時までに、神戸日独協会事務室までご連絡ください。

Tel/Fax 078-230-8150 E-mail : info@jdg-kobe.org

会費は、銀行振込・郵便振込、もしくは当日会場でお支払いください。

銀行振込 三井住友銀行 神戸営業部 普通 8004770

口座名義 特定非営利活動法人神戸日独協会

郵便振込 記号01160-9 番号18199

加入者名 特定非営利活動法人神戸日独協会

2020年関西地区日独協会合同新年会

2020年の関西地区日独協会の合同新年会を、1月11日(土)に開催いたします。

日 時 : 2020年1月11日(土) 18:00~20:00

場 所 : アサヒスーパードライ梅田(ニッセイ同和損保フェニックスタワーB1)

☆ 受付は終了しましたが、当日の受付もしますので会場へ直接お出で下さい。

ドイツ語談話室

第192回ドイツ語談話室

日 時 : 2019年11月16日(土) 14-16時

場 所 : 神戸日独協会会議室

テーマ : 学校時代の思い出

今回の司会は川見正之氏が担当され、1960年代の小学校時代まだ子供が多くマンモス学級であった事、夏休みにはたくさんの宿題が出され奮闘した事、林間学校の思い出、修学旅行の思い出、等々話された。また今回は、ウイーン少年合唱団で活躍していた高砂出身の少年が帰国早々に談話室に参加され、その思い出話もうかがった。ウイーン少年合唱団といっても、最近はオーストリア出身の少年は少数派で、世界の多くの国々から選ばれた少年たちで構成されているそうだ。参加者の皆さんからもそれぞれの思い出話が話された。その一部を紹介すると…

6年間持ち上がりでとても親しい親友が出来た事、多くの楽器に魅了され音楽に夢中になった事、当時流行のヒップホップを楽しんだ事、夏休みに鎌倉に行った友人との思い出、お祭りやキャンプでよく怪我をした苦い思い出、ドイツで小学校入学式の日にお菓子などの入った大きなコーンを持って行った思い出、高校でよく早弁をしていた思い出、戦時中の小学生で勉強より紙風船爆弾の製造の一端をさせられた事、ボーイスカウトに入って社会奉仕の一端を担った事などが話された。

第193回ドイツ語談話室

日 時 : 2019年12月21日(土) 14-16時

場 所 : 神戸日独協会会議室

テーマ : オリンピック

今回の司会は川見正之氏が担当され、1964年に開催された東京オリンピックについて、現行のオリンピックと比較して振り返られた。当時は原則アマチュア選手であったが現在はプロも参加している。一つの理由は共産圏の国々が国営で選手を育てていることに対する対抗だった。また、当時カラーテレビは普及していなく、ほとんどは白黒テレビで観戦した。特に記憶にある選手には、マラソンのアベベ、柔道のヘーシンク、女子体操のチャスラフスカ、など。

参加者の皆さんから、オリンピックの功罪についての話もでた。現在のオリンピックはお金が掛かりすぎ、国民の税金の無駄遣いが目立つ。また、オリンピック開催に関連して莫大な裏金が動き回っている。この為オリンピック開催希望都市は年々減少している。さらに、政府によるプロパガンダに利用される危険がある。来年の東京オリンピックに掛けるお金を止めて、東北の震災復興に充てるべきだ。オリンピックはスポーツの振興という良い面もあるが、オリンピックの運営はあまりにも多くのマイナス面がありすぎる、といった意見が出された。最後に皆さんでクリスマスの歌を合唱した。

今後のドイツ語談話室の予定

第194回 2020年1月18日(土) 14-16時 テーマ : 私の趣味

第195回 2020年2月15日(土) 14-16時 テーマ : ブレクジット(BREXIT)

Deutsche Gesprächsrunde

Protokoll der 192. Deutschen Gesprächsrunde

Zeit: Samstag 16. November 2019, 14 bis 16 Uhr

Thema: Erinnerungen an die Schulzeit

Dieses Mal hatte Herr Masayuki Kawami die Gesprächsleitung und erzählte von seinen Erinnerungen aus der Schulzeit. In den 60er Jahren waren die Grundschulklassen "Mammutklassen" mit vielen Kindern. In die Sommerferien gab es viele Hausaufgaben. Die lustigsten Erinnerungen sind die Waldschule und die Schulreisen. Dieses Mal hat auch ein ex-Mitglied der Wiener Sängerknaben an der Gesprächsrunde teilgenommen. Die Knaben dort kommen aus der ganzen Welt, die Österreicher sind wahrscheinlich in der Minderheit. Er ist gerade aus Wien nach Japan zurückgekommen und erzählte von seinen Erinnerungen. Hier einige Erinnerungen auch der anderen Teilnehmerinnen und Teilnehmer:

-An der Grundschule werden alle Schülerinnen und Schüler über 6 Jahre jeweils in den nächsten Jahrgang versetzt, wodurch man enge Freundschaften schließen kann.

–Es gab viele faszinierende Musikinstrumente, man konnte eine Liebe zur Musik entwickeln.

-Als Hiphop in Mode war, hat man viel Hiphop gemacht.

–Es gab schöne Erlebnisse, wie ein Ausflug mit Freunden nach Kamakura, aber auch bittere Erfahrungen, wie eine Verletzung beim Camping.

– Der erste Schultag in Deutschland ist eine bleibende Erinnerung. Man bekommt an diesem Tag eine Schultüte mit vielen Süßigkeiten.

– An der Oberschule in Japan hat man oft „Hayaben“ gegessen, d.h., dass man sein Mittagessen schon vor der Mittagszeit zu sich nimmt.

– Während des zweiten Weltkriegs mussten die Schulkinder einen Teil bei der Produktion von Ballonbomben übernehmen.

– Zusammen mit Pfadfinderkollegen hat man versucht, viele gute Taten zu vollbringen.

Protokoll der 193. Deutschen Gesprächsrunde

Zeit: Samstag 21. Dezember 2019, 14 bis 16 Uhr

Thema: Die olympischen Spiele

Dieses Mal hatte Herr Masayuki Kawami die Gesprächsleitung und blickte auf die olympischen Spiele in Tokyo 1964 zurück. Grundsätzlich waren die Sportler damals Amateure, heute sind auch Profis dabei. Ein Grund dafür war auch, dass Sportler in kommunistischen Ländern oft staatlich ausgebildet wurden. Damals war Farbfernsehen noch nicht so verbreitet, man hat die Spiele schwarz-weiß mitverfolgt.

Besonders eindrucksvoll waren die Leistungen von Abebe Bikila (Marathon), Antonius Johannes Geesink (Judo) und Vera Caslavka (Turnen).

Die Teilnehmerinnen und Teilnehmer an der Gesprächsrunde sprachen von den Vor- und Nachteilen der Spiele:

- Die Organisation der olympischen Spiele verbraucht riesige Mengen an Geld. Es wird viel Steuergeld verschwendet.
- Man sagt, dass große Mengen an Schwarzgeld fließen.
- Wegen dieser riesigen Kosten nehmen die Städte, die sich als Kandidaten für die Austragung bewerben, stark ab.
- Es besteht die Gefahr, dass Regierungen die Spiele für ihre Propaganda missbrauchen.
- Das Geld für die Spiele hätte für den Wiederaufbau der katastrophengeschädigten Gebiete in Tohoku verwendet werden können.
- Obwohl die olympischen Spiele dem Sport förderlich sind, bringen sie im Gesamten zu viele negative Aspekte mit sich.

Zum Abschluss wurden einige Weihnachtslieder gesungen.

Nächste Treffen:

Samstag: 18. Januar 2020, 14 bis 16 Uhr, Thema: Mein Hobby

Samstag: 15. Februar 2020, 14 bis 16 Uhr, Thema: BREXIT

行事・催し報告

『第2回 社会文化現象としてみた バイロイト・フェスティバルの魅力』の感想

会員 吉川 充子

今回も、前回同様、非常に博識の杉谷眞佐子さん、押尾愛子さんから興味深いお話を伺いました。セミナーのための資料もいろいろ準備していただき、より理解を深めることができ、あっという間に過ぎたとても充実した2時間でした。

前半の講師は、杉谷先生で 0 バイロイト・フェスティバルの歴史、1 ヒットラーと Wini の出会い、2 Wini の子供たちとヒットラー、3 終戦と非ナチ化委員会の決定について学びました。

特に私が印象深いと思ったのは、ヒットラーと Wini の出会いとその後のワーグナー家です。

ワーグナーは、フランツ・リストの娘のコジマと2度目の結婚をし、ジークフリートが生まれます。ジークフリートは、45歳の時に17歳のイギリス人の孤児 Winifred (Wini) と結婚しました。ワーグナー一家の男性は晩婚で奥さんは若いです。Wini は、生命力があり4人の子供を育てます。1923年、Wini は26歳の時に初めてヒットラーに会い、魅力的な人柄の人物というように非常に良い印象を持ちます。その後ワーグナー家はヒットラーを家族の一員のように受け入れます。Wini の彼に対

する印象は、以前、授業で学んだヒットラーの秘書 Traudl Junge のヒットラーに対する印象と非常に似ていると思いました。1930年にジークフリートは急死。彼の遺言で Wini はバイロイト・フェスティバルの総監督権を相続します。1933年以降、バイロイト音楽祭の不安定だった経済状態はヒットラー政権下で公的支援を受け、毎夏、バイロイトは第三帝国の文化事業の中心地となります。終戦後、Wini は、非ナチ化委員会から、責任を追及されますが、同調者 (Mitläufer) として判決を受けただけで、バイロイト祭から手を引くことで僅かな罰金刑で済みます。その後、子供達の間で後継者争いもありましたが、音楽祭は財団の設立後その同意を得て、現在もワーグナー一家の子孫が総監督をつとめています。参考までに上述のヒットラーの秘書の Traudl Junge も、戦後「青少年大赦」で1919年以降生まれの「青少年同調者」(Jugendlicher Mitläufer) と見なされ社会的、法的に免責になりました。

講演の最初に、ドイツの英語の Abitur の内容を紹介していただきました。英語を言語としてだけでなく、英米の社会、文化、歴史についても学ぶのはとても大事なことだと思います。日本の英語の授業もそうならば、英米に対するとらえ方もより深くなると思いました。

後半は押尾愛子さんの今年演じられた“ニュールンベルクのマイスターシンガー”についてのお話でした。あらすじの説明を聞きながら、現在と過去の上演内容を比較して説明していただきとても興味深かったです。映像を見て、村上春樹さんの“バイロイト日記”の文章の内容も今回は理解できました。私は、今回初めて知ったのですが、オペラは一般に、演出家により内容が大きく変わるということです。昨年の上演では、バーンフリート荘のワーグナーの書斎が舞台上で再現されたり、演出家がユダヤ人の場合、ベックメツサー乱打事件を一種のポグロムと解釈したり、ニュールンベルクの裁判の法廷で歌手たちが証言台に立って歌ったりと、演出家の意向で独自に舞台や衣装が変更されます。そのような事情で、毎年、今年はどういう演出かとバイロイト音楽祭を楽しみにしている有名人や政治家、世界中の多くの熱心なワグネリアンがいるのも理解できます。

私はワーグナーのオペラは生で見たことはなく、映画を数回見た程度の知識しかありません。バイロイトに行くのは無理ですが、次回、テレビや映画館で上映があれば是非鑑賞したいと思います。

バイロイト音楽祭と言う「磁場」

湯浅 恵理子

12月1日、第2回「社会文化的現象としてみた『バイロイト音楽祭』の魅力」に参加させていただきました。先の第1回に続き、目まぐるしく社会的状況が変わってゆく戦前から戦後にかけて「バイロイト音楽祭」がどのように変遷したのかを、杉谷眞佐子氏、押尾愛子氏に詳しく解説していただくものでした。

リヒャルト・ワーグナーといえば…浅学な私にとっては、総合芸術論を展開し、自身の音楽の上演に非常にこだわりを持った作曲家、あるいはヒトラーに愛された作曲家、というイメージしかありませんでした。しかし、お二人のお話で見えてきたのは、現代まで続くワーグナー家ひいてはバイロイト音楽祭が、社会的な情勢に深くかかわってきた中でどのようにその責任を果たそうとしているのか、ということでした。

少し話は変わりますが、今月6日、ドイツのメルケル首相がアウシュヴィッツ強制収容所を訪れ、ナチス・ドイツが行ってきた行為を記憶し、語っていくことは「終わることのない責任」だ、と述べました。現代ドイツは、自国の負の歴史を語る責任について、深い自覚・覚悟を持っています。

このことは、バイロイト音楽祭を連綿と続けてきたワーグナー家にとっても重要な責務となります。村上春樹のエッセイ「バイロイト日記」では、彼が『ニュルンベルクのマイスタージンガー』をみて、ニュルンベルク裁判を彷彿とさせる演出に遭遇する記述があります。戦後のバイロイト音楽祭では、このように、歴史に自覚的な演出がたびたび出てくるということでした。

ワーグナー家、そしてワーグナーの音楽には戦時中のナチス・ドイツのある種の思想的支柱として利用されてきたという事実があります。そのことについて現代のバイロイト音楽祭は、まさに「当事者」であったはずのワーグナーの作品を通して「戦争」を語ることで、その責任を果たそうとしているのです。このことから、この音楽祭が、単純にワーグネリアンや政財界の重鎮が集う社交の場としてだけではなく、現代ドイツ社会の責任を語り継いでいく場としても存在しているのだと気づきました。バイロイト音楽祭は、伝統を守りながらも作品の斬新な演出を行うことで、その社会的・文化的な責任を果たしていく特殊な「磁場」として、作用しているのではないのでしょうか。

2019年度クリスマス祝賀会開催

会員 妹尾 行雄

神戸日独協会の最重要活動の一つである2019年度クリスマス祝賀会が、12月8日(日)17時より神戸市北野にある神戸倶楽部で開催されました。協会員の方々やそのご家族、ご友人など53名の出席を賜り、盛大かつ楽しく祝賀会を執り行いました。

祝賀会は3部形式で行われ、まず第1部として協会のドイツ語講師であるクーセギさんのハンガリー紹介が行われました。同氏はハンガリーのご出身で協会以外にも京都大学等でドイツ語を教えられています。今年は日本—ハンガリーの外交関係樹立から150年の一つの節目で、あまり日本人に馴染みの薄いハンガリーとそれほどの長い関係があったことに驚きました。ハンガリーの歴史、言語、慣習等の紹介のあと、ハンガリーの民族音楽と舞踊の説明と実演が行われました。同氏は青年時代にセミプロとして舞踊の舞台に立っていたそうです。そして祝賀会のメインイベント、出席者全員のハンガリーダンス。全員がクーセギさんの合図で大きな輪になって踊りまわりました。皆さん本当に楽しそうでした。クーセギさん、ありがとうございました。

そして踊りで食欲がでてきたところで第2部の祝宴の始まり。平塚理事の司会進行で柘田会長の開会挨拶、ハイケ・クラハト領事の来賓挨拶があり、松井副会長による乾杯の音頭で全員で乾杯、そして神戸倶楽部の美味しい料理タイムが始まりました。出席者は6つの円形テーブルに着席し料理を堪能。会話も弾み楽しい時間を共有しました。

祝宴の途中から第3部のアトラクションが始まりました。まずは有志の方からご寄付頂いた景品の抽選会。そのあとに次郎丸理事とビアフェストでお馴染みの岩島さんによるドイツ語のクリスマスソング大合唱と続き、最後は出席者全員の記念写真、約3時間に及ぶ祝賀会が終了しました。

素晴らしい祝賀会でした。準備に携わった関係者の皆さまにお礼を申し上げます。来年もさらに楽しい祝賀会を期待するとともに今年以上の多くの出席者の来場を祈ります。

オルブリッヒ大使からのお便り

11月中旬から12月中旬にかけて6年ぶりに日本を訪問されたオルブリッヒ大使よりご帰国後に協会へお便りをいただきましたので、ご紹介いたします。

Japanreise 2019

Nun sind wir schon wieder drei Wochen zurück aus Japan, und wir hatten versprochen, etwas zu unserer Japanreise zu schreiben. Da die Nachrichten zwischen den JDGs ausgetauscht werden, möchte ich allen Mitgliedern der drei JDGs Kobe, Osaka und Ishikawa danken, die uns während unserer diesjährigen Japanreise so gut betreut haben.

Nachdem uns das Auswärtige Amt 2013 vom Generalkonsulat Osaka-Kobe an die Botschaft Quito /Ecuador versetzt hatte, mußte es volle sechs Jahre dauern, bis Rebekka und ich wieder nach Japan kommen konnte. In den drei Jahren Ecuador war die Entfernung einfach zu groß, leider konnten wir in Südamerika auch keine Gäste aus Japan empfangen. Zurück in Berlin, mußten wir uns zuerst eine Bleibe suchen, was sich als sehr schwierig erwies, da die Immobilienpreise inzwischen stark angezogen waren und auch das Angebot an guten Häusern und Wohnungen sehr mager war. Dann kam der Umzug und im Haus mußten zahlreiche Reparaturen vorgenommen werden. Schließlich gesundheitliche Probleme. Endlich, im Herbst 2019 hat es geklappt und wir entschieden, wegen der langen vergangenen Zeit einen ganzen Monat zu bleiben, um möglichst viele unserer japanischen Freunde sehen zu können.

Wir haben uns absichtlich auf den Kansai und Hokuriku beschränkt, wo die meisten unserer Freunde wohnen. Dem Kansai fühlen wir uns besonders verbunden: wir waren ja nicht nur 2009-2013 am GK Osaka-Kobe, sondern meine allererste Japanreise 1971 - vor nunmehr fast einem halben Jahrhundert - führte bereits in den Kansai, und 1979-81 war ich 1979-81 JSPS- und AvH-Stipendiat an der Universität Kyoto - Rebekka unterrichtete damals Deutsch am Goetheinstitut Kyoto und an der Doshisha Universität - und wir haben sogar noch aus der damaligen Zeit Freunde im Kansai. An der Botschaft Tokyo waren wir von 1983-87. Unser Sohn Gunnar wurde 1985 in Shibuya-ku geboren, der Geburtsort Tokyo steht in seinem Reisepaß und wird ihn auf diese Weise sein ganzes Leben lang begleiten.

Wie Sie wissen, war ich seit 1981 im Auswärtigen Dienst, d.h. 35 Jahre bis zu meiner Pensionierung im Jahre 2016. Alle 3-4 Jahre wurden wir versetzt, von Bonn nach Tokyo, wieder nach Bonn, nach Athen, Reykjavik, wieder Bonn, zwei Jahre mußte ich zwischen Bonn und Berlin pendeln, dann Botschafter bei der Organisation für das Verbot Chemischer Waffen in Den Haag, nach Berlin, schließlich Generalkonsul in Osaka-Kobe und am Schluß Botschafter in Quito/Ecuador. Wir haben sehr viel erlebt! Aber der

schönste Posten, den wir je hatten, war doch das Generalkonsulat in Osaka-Kobe! Wir denken sehr gerne an diese Zeit und fühlen uns in Japan und besonders im Kansai wie in unserer zweiten Heimat.

Der Empfang, der uns bereitet wurde, war außergewöhnlich. Nie hätten wir gedacht, nach sechs Jahren Abwesenheit so unglaublich schön wahrgenommen und betreut zu werden. Eine besondere Rolle spielten natürlich die Japanisch-Deutschen Gesellschaften in Kobe, Osaka und Ishikawa, zu denen wir während meiner aktiven Zeit als Generalkonsul besonders engen Kontakt hatten. Besonders möchten wir uns bedanken beim Präsidenten der JDG Kobe, Herrn Prof. Masuda Yoshikazu und seiner Frau Setsuko, sowie den Mitgliedern Kusakabe Noboru und Sugako sowie Okamoto Yo und Sanae, bei der Geschäftsführerin der JDG Osaka, Frau Wada Nobuko, dem Vizepräsidenten Botschafter a.D. Shinyo Takahiro und seiner Frau Toshiko, den Mitgliedern Okamoto Yukiharu und Yoko (Grünwaldstiftung), sowie Saito Yutaka und Yoko, die eigens aus Kawasaki/Kanagawa anreisten, bei Higaki Miyoko und Konishi Yukiko von der Kyoto Higaki Ballet Company, beim Ehrenpräsidenten der JDG Ishikawa, Herrn Prof. Kusune Shigekazu und seiner Frau Yuki, sowie beim ehemaligen Kansai-Botschafter des Gaimusho, Tanabe Ryuichi und seiner Frau Noriko. Auch meine ehemaligen Kollegen im Generalkonsulat Osaka-Kobe und meinen Nachfolger Werner Köhler konnten wir besuchen. Natürlich haben wir auch viele Freunde in Japan, die nicht Mitglied in einer der Gesellschaften sind oder auch gar nichts mit Deutschland zu tun haben, teilweise sogar noch aus den 1970er Jahren. Einige unserer Freunde hatten uns schon in Berlin besucht, wir freuen uns auf weitere Besuche in der Zukunft! Berlin, seit 1990 wieder ungeteilte, deutsche Hauptstadt, ist eine spannende, internationale Stadt, die auch für japanische Gäste viel zu bieten hat. Über 4.000 Japaner leben gerne hier, unter anderem sind hier die imposante japanische Botschaft, die Mori Ogai-Gedenkstätte, das Japanisch-Deutsche Zentrum Berlin und der wunderschöne japanische Garten in den "Gärten der Welt". Teile des ehemaligen Mauerstreifens sind mit japanischen Kirschbäumen bepflanzt, in jedem Frühjahr gibt es dort ein großes japanisches Fest. Auch die brandenburgische Hauptstadt Potsdam, nur wenige Kilometer außerhalb von Berlin und in weiten Teilen Unesco-Welterbe, zieht zahlreiche japanische Besucher an.

Meine Frau und ich wünschen allen Mitgliedern der JDGs Kobe, Osaka und Ishikawa ein Gutes Neues Jahr, und Glück, Erfolg und Gesundheit in der Zukunft! よいお年をお迎えください！

Ihr Alexander Olbrich und Rebekka Magnúsdóttir

日本旅行2019

元大阪・神戸ドイツ総領事 アレキサンダー オルブリッヒ

日本から帰ってもう3週間が経ちました。私たちの日本旅行について何か書くことをお約束しました。日独協会間では情報が取り交わされていますので、今年の日本旅行の間にとても良くお世話をして下さった神戸、大阪、石川の日独協会の会員の方々に感謝をしたいと思います。

2013年に大阪・神戸総領事からエクアドル共和国大使に転任になってから、妻のレベッカと私が再び日本に来ることが出来るまで、まる6年が経たねばなりません。エクアドルでの3年間は日本との距離はなんと言っても余りにも遠く、南アメリカでは残念なことに日本からのお客さんもお迎えすることが出来ませんでした。ベルリンへ戻ってからは先ず住居を探せねばなりません。このことが余りにも難しいことが分かりました。海外勤務の間に不動産の価格がひどく上昇し、良い家屋の物件もとても乏しかったので。引越をすることが出来ましたが、屋内を多く修繕しなければなりません。最後には健康上の問題。やっとのことで2019年の秋には落着し、私たちは日本の友人たちのできるだけ多くの方々に会いできるように、年月が余りにも長く過ぎ去ったこともあり、まるまる一か月間滞在することを決めました。

私たちは友達の大多数が住んでいる関西と北陸に故意に限定しました。関西には特に結びつきを感じています、2009年から2013年まで大阪・神戸総領事館にいただけではなく、私の1971年の一番最初の日本旅行は—今となってはほぼ半世紀前のことですが—すでに関西に行き着いていたのですから。それに1979年から1981年まで日本学術振興会とフンボルト財団の奨学生として京都大学で学びました。レベッカは当時京都ゲーテインスティテュートと同志社大学でドイツ語を教えていました。しかも今でも当時の友人たちが関西にいます。1983年から1987年までは東京のドイツ大使館に勤務しました。息子の Gunnar は1985年に渋谷区で生まれましたので、彼のパスポートの出生地の欄には東京と書かれていて、この出生地は彼の生涯を通じて連れ添って行くことでしょう。

皆さんもご存じのように、私は1981年以来外務省に勤務し、2016年に退職するまで35年間勤めました。3・4年ごとに私たちは転勤し、ボンから東京へ、再びボンへ、アテネへ、レイキャビクへ、再びボンへと。2年間はボンとベルリンの間を往復し、それからハーグの化学兵器禁止機関大使として、そしてベルリンへと、ついに大阪・神戸総領事、そして最後がエクアドル大使と勤めました。私たちはとても多くを体験しました。しかし私たちが就いたポストで最も素晴らしかったのは大阪・神戸総領事館でした。私たちはこの時代をととてもよく思い出し、日本にいるように感じ、特に関西を私たちの第二の故郷のように感じています。

私たちのための今回の歓迎は並々ならぬものでした。私たちは6年間も居なかったのに信じられないほど素晴らしく心を通わせお世話をしていただけたとは思っていませんでした。特別な役割を演じて下さったのはもちろん、総領事としての現役時代に特に密接な関係にあった神戸、大阪、石川の日独協会でした。特に神戸日独協会の柘田義一会長と節子夫人、会員の日下部昇さんと管子夫人、並びに岡本陽さんと早苗夫人、大阪日独協会の和田展子事務局長、副会長の神余隆博大使と斗志子夫人、会員の岡本幸治さんと葉子夫人(グリーンワルト財団)、並びに特に川崎からいらして下さった齋藤豊さんと容子夫人、桧垣バレエ団の桧垣美世子さんと小西裕紀子さん、石

川日独協会の楠根重和名誉会長とゆき夫人、並びに田邊隆一元関西大使と哲子夫人たちに特に感謝を申し上げます。総領事館のかつての同僚の皆さんと後継者であるヴェルナー・ケーラー総領事をお訪ねすることも出来ました。もちろん日独協会の会員でない方やドイツとは全く関係のない、それどころか中には1970年代からの日本の多くの友達もいます。私たちの友達の幾人かはすでにベルリンの私たちを訪ねてくれました。今後更にお尋ねくださるのを楽しみにしています。

1990年以来再び統一されたドイツの首都であるベルリンは、人を引き付けて離さない国際都市であり、日本からの訪問者にも多くのものを提供する都市です。4000人以上の日本人がこの街に住み、とりわけここには堂々と立派な日本大使館、森鷗外記念館、ベルリン日本文化センター、「世界庭園」にはすばらしく美しい日本庭園があります。かつての壁のあった場所の一部には日本の桜の木が植樹されていて、そこでは毎春に盛大な日本祭が行われます。ベルリンから数キロの所にあり大部分が世界遺産になっているブランデンブルク州の州都であるポツダムも多数の日本からの訪問者を引き寄せています。

妻と私は神戸、大阪、石川の日独協会会員の皆様に、よき新年、ご多幸、ご成功、ご健康を祈っています。
(栞田訳)

実行委員として神戸日独協会の活動に参加しませんか

神戸日独協会の主要な年間の活動は総会及び理事会によって決定されますが、日頃の活動は実行委員及び会員によって行われています。実行委員は定款上の役職ではなく、会員のボランティアによるものです。毎月第3日曜日に実行委員会を開催し、会員の方々が希望するあるいは実行委員のアイデアによる催し物を企画し、準備し、実行しています。神戸日独協会は会員の皆様の積極的なご支援を必要としています。奮ってご参加ください。

1・2月の実行委員会のお知らせ

1月と2月の実行委員会を下記のとおり開催します。実行委員以外の方にも是非ともご参加の上ご意見をいただきたくお願いいたします。

日時： 1月18日(土)16時30分～ (定例の第3日曜ではありません)

2月16日(日)15時～

場所： 神戸日独協会会議室

事務室からのお知らせ

訃報

前理事の小橋紀之氏が去る11月21日に逝去されました。
長年にわたり理事として協会の運営にいただいたご尽力に
感謝するとともに、謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り
します。

会報発送ボランティア募集

会報の発送を手伝ってくださる方を募集しております。次回の発送予定日は3月12日(木)です。お手伝いいただける方は、事前に事務室へご連絡(TEL/FAX 078-230-8150)の上、12時半頃事務室にお越しください。

これからの神戸日独協会の催し

日時	催し	会場	申込〆切 など
1月11日(土) 18:00~	関西地区日独協会 合同新年会	アサヒスーパードライ 梅田	当日参加可
1月18日(土) 14:00~	第194回 ドイツ語談話室	神戸日独協会 会議室	当日参加可
1月18日(土) 16:30~	実行委員会	神戸日独協会 会議室	当日参加可
1月26日(日) 10:00~	第2回ドイツ菓子講習会	芦屋市立潮交流センター 料理教室	1月17日(金)
2月15日(土) 14:00~	ドイツの日 German Day	芦屋市立潮交流センター 多目的室	2月10日(月)
2月15日(土) 14:00~	第195回 ドイツ語談話室	神戸日独協会 会議室	当日参加可
2月16日(日) 15:00~	実行委員会	神戸日独協会 会議室	当日参加可
2月23日(日) 13:00~	第3回ドイツ菓子講習会	うはらホール 料理教室	2月14日(金)
3月14日(土) 15:30~	会員によるコンサート	音楽ホール 里夢 SATOM	3月 6日(金)